



## ふくしま再生の会第9回報告会

【菅野宗夫撮影「虹の架け橋」：2014年11月3日12時00分 福島市岡部地内 阿武隈川文知摺橋中央（国道115号）から北を望む】

# 農林畜産業の再生へ

2015年10月14日16時から東大弥生講堂アネックスでふくしま再生の会第9回報告会「農林畜産業の再生をめざして」が、東大農学生命科学研究科アグリコクーン農における放射能影響FGおよび東大福島復興農業工学会議の共催により開催された。冒頭東大大学院農学生命科学研究科長・農学部部長・丹下健さんから復興再生の課題解決に



### 飯舘村から

(上の写真左から)菅野永徳(ながのり)、山田猛史(たけし)、菅野宗夫(むねお)の3氏が参加した。山津見神社氏子総代の永徳さんは焼失したオオカミ天井絵の復元が和歌山大・東京藝大の協力で完成したと報告した。

大学をあげて取り組むとの挨拶があった(写真右上)。◆副理事長の大永貴規さんの司会で最初に理事長の田尾陽一さんから「ふくしま再生の会とは／その活動の全体像」の報告があった。「共感と協働」を基本とする再生の会の活動のもとで、産業と生活の再生、放射能・放射線の把握、各行政地区での住民との協働、人材などの協働ネットワークへの取り組みが報告され、最後に会の体制の説明があった。

◆2人目の溝口勝さん(再生の会副理事長・東大福島復興農業工学会議)は



「飯舘村の農業再生の構想」と題して飯舘村から新しい日本の農業を創造すべきとし特に若い担い手の育成に専門の垣根を越えて取り組む例として飯舘のハウス野菜のケーキに挑戦したフェリス女学院大生が紹介された(写真右)。



◆3人目の菅野宗夫さん(再生の会副理事長・飯舘村農業委員会会長)は「4年7か月が過ぎた今の飯舘村のすがた」という題で報告した。村の800haの水田のうち300ha強の優良農地が仮々置場と化している現実の中で、山津見神社再建、3棟のハウス栽培、関根松塚の山田猛史牧場の営農再開が進んでいく。生きがいの感じられる「虹の架け橋」の向こうに向かって。◆4人目の山田猛史さん(関根松塚地区復興委員長)は関根松塚地区での水田放牧営農再開に向けて課題と心境を語った。昨2014年10月に避難先の白河近郊の中島村から飯舘の西隣の飯野町に牛を連れて越してきた。幸い高級牛肉の需要は旺盛である。「やってみせる」を現場で実証したい。飯舘での放牧も3年続ければ将来が見えてくる。試食もよろしく。但しあまり若い牛は提供できないけれど(会場爆笑)。◆4人の報告の後討議に入り、森林資源、農家の生産意欲、生きがいのための米作り、山こそ自然の恵みの源泉、などについてパネリストを交えて活発な討議が行われた(写真左)。(撮影・文責：若林一平)



詳細は再生の会HP：<http://www.fukushima-saisei.jp>

### 上野英三郎博士とハチ公

報告会が行われた弥生講堂アネックス前に本年3月8日「上野英三郎博士とハチ公」のブロンズ像が建った。「秋田犬のハチは大館市生まれ、

生後50日で東京帝大農学部の上野英三郎博士(農業工学・農業土木学)に贈られた(ブロンズ像銘板より抜粋)。上野博士が亡くなってから90年ぶりの再会を果たしハチは心の



故郷(ふるさと)に帰ってきた。復興の農業工学を提唱する溝口勝さんによると、不毛の大地を肥沃な農地に変える上野博士の農学思想は飯舘村の復興再生の思想そのものにほかならない。